

車いす

車いすシーティングによる復興支援

リフトの支援とノルウェーからの車いす支援

日本シーティング・コンサルタント協会 理事長
木之瀬 隆さん



プロフィール
作業療法士（1982年）。中央鉄道病院、東京都立医療技術短期大学、東京都立保健科学大学などを経て、2005年首都大学東京准教授、08年から12年3月まで日本医療科学大学教授。研究テーマは、車いすシーティングに関する研究、福祉用具の選定・適合に関する研究など。

東日本大震災後、2011年4月より福祉用具支援として宮城県

状況と経過について紹介する。

1 東日本大震災後の福祉用具支援

東日本大震災後、2011年4月より福祉用具支援として宮城県北部、石巻市を中心に当協会活動として訪問している。合わせて12年7月からは、高齢者施設へのリフト支援も開始した。また、ノルウェーの車いすメーカーのアル・リハブ社が高齢者施設にコン

状況と経過について紹介する。今年8月までに宮城県北部地域へ10回訪問している。初回訪問から、宮城県介護研修センターを通

て訪問させて頂いている。同センターの大場薫氏に同行し、福祉避難所や仮設住宅での福祉用具の対応状況を見せて頂いた。



写真1 リフト使用の練習

その後、当協会が同年10月8日に「東日本大震災と福祉用具支援セミナー」として福祉避難所、仮設住宅の状況とシーティング支援のケーススタディの発表会を行った。その中で、一次救済と合わせて、福祉避難所などへの福祉用具支援も同時に行わなければならないことがわかつた。

オート型車いす（高機能ティルト・リクライニング車いす）の支援を進めており、その

2 リフト導入支援

「介護労働者の負担軽減に関するリフト活用のための人材育成事業」（公益財団法人社会福祉振興・試験センター）として7月から、石巻市の高齢者施設へ訪問し



写真2 ティルト・リクライニング車いすの適合調整

ている。その中で、震源地に一番近い施設として震災報道の中でも注目された、牡鹿半島の先端にある特別養護老人ホーム「おしか清心苑」へ数回訪問している。職員も被災している中、現在も大変な状況は続いている。そこに、設置式リフトを導入し職員の

腰痛予防、負担軽減と利用者の離床回数や離床時間の確保への支援を開始した。はじめに職員へのリフトとティルト・リクライニング車いすの試用実習を半月ほど繰り返してもらった。その後利用者の選定・適合支援を行い利用を開始した（写真1、2）。

3 ノルウェー王国のアル・リハブ社からの車いす支援

状況を目の当たりにして、何とか車いすシーティングの支援を行いたいと約束してくれた。今年の国際福祉機器展後に本格的な支援が開始する。全体の受け入れ先は宮城県介護研修センターが窓口となり、近隣の特別養護老人ホームなど複数の高齢者施設へコンフォート型車いすの寄贈と利用者の選定・適合支援を行う予定である（写真3）。



写真3 ノルウェーのティルト・リクライニング機能付き車いす

ノルウェーのアル・リハブ社から高機能なコンフォート車いすとして「ネットイ」シリーズの提供を宮城県北部へ行いたいとの申し出を頂き、今年6月末に被災地視察と一緒に行った。

アル・リハブ社の幹部は、被災地近隣の高齢者施設での困窮したリハブ社からの高機能なコンフォート車いすとして「ネットイ」シリーズの提供を宮城県北部へ行いたいとの申し出を頂き、今年6月末に被災地視察と一緒に行った。